

「組合員・地域に愛され、親しまれるJAへ」～新たな未来の創造～

みらい



1
2023

JA鹿児島みらい 広報誌No.30



新年のごあいさつ 新年あけましておめでとうございます



代表理事組合長
村山 眞一郎

組合員・地域の皆様方におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中はＪＡ鹿児島みらいの運営および各事業活動に対しまして、格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の拡大と長期化により、生活環境が大きく変化し、ウイズコロナに向き合いながら対応に追われた１年でありました。さらに、ウクライナ情勢や急激な円安による物価高騰が加わり、組合員の皆様におかれましては先行きの見えないう経済情勢に大きな不安を感じておられることと思います。

また、農業を取り巻く環境は、食料の安定的な供給を確保する「食料安全保障」の強化が求められている一方、国際情勢の変化により肥料、飼料、燃油など、営農に欠かすことのできない生産資材価格はかつてない水準まで高騰し、生産現場は危機的状況が続いております。農家組合員が今後

も安心して営農を継続できるよう、持続可能な農業経営に向けた支援に取り組んでいくことが求められています。わが国の食料・農業・農村をめぐる環境が大きく変化するなか、将来にわたって、国民の安全・安心を守るため、「国消国産」をテーマに掲げ、国民理解の醸成や消費行動の変容に繋げていきたいと考えています。

このような中、昨年10月に5年に一度開催される和牛の祭典、「第12回全国和牛能力共進会」が鹿児島県で開催されました。飼料価格の高騰により畜産経営にも深刻な影響が出ているなか、逆境を跳ね返し、生産者が「チーム鹿児島」一丸となって取組まれた成果として、鹿児島県は農林水産大臣賞を6部門で受賞し、種牛の部4区で名誉賞の内閣総理大臣賞の受賞となりました。関係者の皆様の功績に心から敬意を表したいと存じます。

また、農協改革につきましましては、令和3年に決定された規制改革実施計画に基づき、当ＪＡは第二次中期3か年計画の中で、組織の基本目標を「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」とし、「自己改革の実践」「中長期の収支シミュレーション」「准組合員の意思反映」について方針を策定し、令和4年度において、その取り組み状況について組合員との対話

を通じて、必要な見直しを行う「自己改革実践サイクル」を進めております。

組合員・地域の皆様から、私どもの自己改革の取り組みを評価いただくためには、確実に実践し、「しっかりと伝えていくこと」が重要だと考えております。今後全組合員訪問や地区別説明会・総代会などを通じて、自己改革の取り組み状況を丁寧に説明し、徹底的な対話により、組合員の皆さまの評価と意向を踏まえ、更なる自己改革に取り組んでまいります。

ＪＡ鹿児島みらいは、「組合員・地域に愛され、親しまれるＪＡへ」を経営理念として、都市農業の振興を基軸とした自己改革の実現と総合事業を支える経営基盤を確立するため、引き続き支店機能再構築および支店再編を進め、支店の体制を強化することで、「出迎える体制の整備」や移動金融店舗車「みらい号」および移動購買車「笑味ちゃん号」の運行をはじめ、徹底した訪問活動など、「出向く体制の強化」を通じて、組合員・地域の皆様に充実したサービスを提供できるよう役職員一丸となつて邁進してまいります。

最後に組合員・地域の皆様方にとりまして、本年が素晴らしい一年となりますことを心からご祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

1月号 もくじ

新年のごあいさつ	2
下期地区別説明会	
意見・要望	4
イベントリポート	6
トピックス	8
女性部通信	14
食農教育	16
旬を食べよう	18
不動産情報	18
家庭菜園・SDGs	19
ＪＡからのお知らせ	20
読者からのおたより	22
お楽しみクイズ	23
アートの広場	24

卯年





常勤監事
下尾 孝秋



代表監事
福重 祐之



常務理事(信用共済担当)
杉森 広行

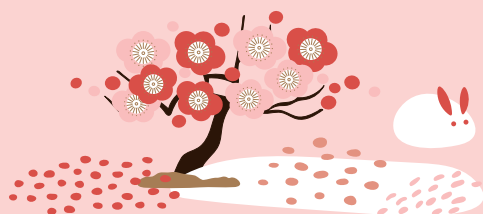


常務理事(管理経済担当)
橋口 公治

J A 鹿児島みらい 非常勤理事・監事

【理事】
枇榔 稔 林 大史 飯屋 幸孝 迫 博光 富安 仁 井手上 貢 森山 智 古別府伸一郎 樋口 智 江川 健二 奥 賢一 江藤 正弘 本村 浩 西 久人 青屋 學 上水樽 孝 野田 勉 藤崎 国子 守屋 宏美 緒方 由美子

【監事】
上國料 靜 曾木 豊 迫 敏則 有元 利和 小園 修一
【員外監事】
今村 順二



全国J A名称みらい冠名交流会議(通称・J Aみらいサミット)

12月7日、第13回J Aみらいサミットがオンラインで開かれ、J A津軽みらい主催のもと全国の「みらい・未来」の名の付く9 J Aが参加しました。

会議では、J Aみらいサミット協定書や災害時における相互支援に関する協定書など各協定書を読み上げたあと挙手をもって承認されました。

また、全体会議では「持続可能な農業の実現と地域共生社会に向けた取り組みについて」をテーマに各J Aの役員による討論会、意見交換会を行いました。

引き続き、各J Aの特産品紹介、試食が行われ今回はえひめ未来の「サツマイモとチーズタルトの「お芋に恋して」、きたみらいの「どら焼きとバターどら焼き」、ふくしま未来の「あんぱん」の商品を試食したあと、特産品フェアの会場について動画を使い説明がありました。

最後に2023年度の開催J Aとして村山眞一郎組合長が「来年度は是非ともこの鹿児島で開催をしたいと思います。自己改革に対する各J Aの取り組みなどを共有すること併せて全国的にも有名な桜島小みかんや日本一に輝いた鹿児島黒牛など皆さまに直接ご紹介したいと思います」と話しました。

みらいサミット参加J Aは、きたみらい(北海道)、津軽みらい(青森県)、ふくしま未来、千葉みらい、東京みらい、山梨みらい、兵庫みらい、えひめ未来、鹿児島みらいの9 J Aです。



■年金友の会の活動については、新型コロナウイルスの関係で色々な行事や旅行が中止となったが、今年の予算はいくらだったのか。会員に対し何らかの還元をすべきではないか。

【回答】今年度は年金友の会の旅行にかかる予算を約1,000万円計上しておりました。会員の皆様には全員にタンブラーを贈呈することとしております。

■JAが提携しているセブンイレブンのATMで入金ができるのは非常に便利だが、これを知らない人も多いのではないか。

【回答】HPや広報誌への掲載と併せ、各支店・事業所への掲示など、PRを徹底致します。

■ゼロ金利政策等により、貯金を集めても増収効果は薄いかもしいが、金利が上昇した時には増収効果が望めるので、貯金を集める努力を継続して頂きたい。

【回答】ご意見のとおり、今後も継続して貯金推進に取り組みます。

■法人融資を行うこととしているが、具体的にはどのような取組みか。

【回答】農林中央金庫より出向職員を受け入れたプロジェクトを昨年度から立上げ、系統先法人取引先の約120先への訪問推進活動を現在実施しており、事業性融資の強化に取り組んでおります。

■共済に加入したが、ポケットティッシュ1つのサービスもなく、本部から契約お礼の書面だけが届く。感謝の気持ちがないので考えて頂きたい。

【回答】共済証書とお礼文書については共済連からの

直送となっておりませんが、加入粗品は現在準備しております。今後は共済証書の内容確認とお礼も含めて、担当職員が再訪問するように致します。

■オール14が特に高騰しているのは何故か。また肥料が高騰している状況で、例えば有機肥料を独自で開発するなど、農家が助かる方法を考えてほしい。

【回答】オール14については、成分の中にリン酸・カリが含まれており、その成分が海外からの輸入の関係で高騰している状況です。また有機A801とほぼ同一の使用成分となる「アグリッチ」を経済連が開発しており、安価で提供しています。

■畜産をめぐる情勢が厳しいことは認識しているが、今後どのような対策を講じていくのか。特に飼料価格が高騰している。

【回答】配合飼料価格については、価格安定制度による支援があります。現在JAグループにおいても飼料価格高止まり対策を求めている、当JAも国や行政への支援対策要請活動と併せながら、独自対策の検討に取り組みます。

■指導員と連携をとって農協としての相談機能を發揮してもらいたい。信用・共済部門だけでなく、農協本来の経済事業についても、各支店に農業の知識を持った職員を配置するなどして、販売のPR等をしてもらいたい。

【回答】営農指導については、指導員により引き続き巡回指導を強化して参ります。また来年のカレンダーには営農指導員の顔写真を掲載して作成しておりますので、ぜひ活用頂きたいと思っております。併せて、組織全体での営農相談機能向上に向けた素地づくりとして、若手職員を中心に「みらい検定プロジェクト」を立ち上げ、職員の農業に対する知識向上にも取り組んでおります。

「プロジェクト」を立ち上げ、職員の農業に対する知識向上にも取り組んでおります。

■農業を始めたが、農機は非常に高い。大規模農家ならともかく、とても引き合わない。後継者がいない、また親の代の農機が壊れて農業を辞めるといった現状もあることから、JAが農機を貸し出すシステムがあれば農業を続ける人も出てくるのではないか。

【回答】どの地区でも要望が上がっており、県下で同じような状況があると思いますが、経済連が実施しておりますので、JAはこれを橋渡しできるようにしたいと考えます。使用時期が重なるなどの懸念も考えられますが、各購買店舗等を通じて発信力の強化に努めます。

■農業後継者が減少してきているので、JAとしての支援をお願いしたい。

【回答】このことは鹿児島市全体的な問題だと認識しており、JAとしても何らかの対策を打たなければと検討しております。このような中でも40〜50代を中心とした青年部等も立ち上がっておりますので、JAとして青年部会の活動を継続して支援します。

■合併後に若い職員の退職が多く発生していると聞いているが、職員数が減少していることをどう考えているか。

【回答】様々な年代の退職者が発生し、職員数が年々減少しているのは事実です。採用活動も積極的に進めておりますが、依然として厳しい状況が続いております。職員数の減少により各職員に負担が掛からないよう、注意しながら人員配置を行って参ります。また現在は、若い職員が希望を持って勤務できる

よう、若手職員を中心とするプロジェクトも立ち上げており、若手職員の意見を事業運営に反映させていく取組みも行っております。

■対策後シミュレーションは、本当に実現できるのか。

【回答】赤字部門の圧縮に向けたプロジェクトをはじめ、信用事業では国債の運用や投資信託の取り扱い、また貸出強化プログラムによる住宅ローンや食農関連法人への融資拡大など、既に様々な取組みに着手しております。経済事業を大きく伸ばすことは難しいですが、組合員の方々に農業を継続して頂くため、JAとしても基盤の拡充が必要だと認識しているところ입니다。

■JAエコパルスのLINE会員になっているが、キャンペーンやイベントの案内がよく来る。今の若い人たちはスマホで情報を得るのが当たり前だし、我々高齢者もほとんどの人がスマホを持っている。JAも広報のツールとしてSNSを活用してほしい。

【回答】当JAもLINEの運用を実施しており、たくさんの方々にご利用頂いておりますが、SNSを活用した広報活動については多方面からご意見を頂いていることから、具体的な取組み強化策について今後検討致します。

■支店統廃合の進捗状況を教えてください。

【回答】谷山北部地区については、当初の予定でいくと令和6年3月が新店舗営業開始の予定となっております。現在、行政への各種手続申請作業を行っております。伊敷地区については、下伊敷支店内に伊敷支店仮店舗を設置した上で現伊敷支店の建て替えを行い、令和6年5月が新店舗営業開始の予定となっております。

おります。なお伊敷地区については、当初の候補地取得が見送りとなったことから、新店舗営業開始時期がずれ込んでおります。

■伊敷地区の店舗再編について、店舗レイアウトはできているのか。高齢者を意識した店舗計画も必要だと思う。

【回答】建物については利用者に不便がかからないような店舗建設に取り組みます。図面を作成した上で駐車場が何台確保できるのかなどを検討し、できるだけコストのかからない方法での整理を進めたいと考えています。

■当初の伊敷地区新店舗予定地が売主の都合で見送りとなり、新候補地を小野支店周辺でも検討されたことは分かったが、なぜ最終的に伊敷支店が候補地となったのか。

【回答】様々な候補地を検討しましたが、4店舗からの距離や地理的な面を総合的に考慮し、施設建設委員会において伊敷支店を建て替えることを決定し、最終的に理事会で決定致しました。

■統廃合後の小野支店はどうなるのか。前回の説明から時間が経っているが、明確な小野支店の活用方法が示されていない。

【回答】統廃合後すぐに建物をなくすというような考えはありません。小野支店は女性部活動が非常に盛んであり、そういった部会員の方など、様々な方面からご意見・ご要望をお聴きして、最善の活用方法を検討していきたいと考えております。

■谷山北部地区の支店再編について、5月の地区別説明会では検討中ということであったが、その後説明

がない。新店舗の建設により山田支店の金融店舗が解体されることについても、以前はグリーンセンターを設置するとの説明があった。山田地区に購買店舗ができれば利便性があるだろうと思っていたので、努力してグリーンセンターを設置できるよう頑張ってください。

【回答】谷山北部地区の新店舗建設については、施設建設委員会を経て理事会で決定しているため、支店再編計画に則った取り組みを進めます。今後はグリーンセンター・西谷山の移転等も含め、広報誌によるフィードバック、また支店管理者との情報共有の徹底により、組合員の皆様へ情報発信できるように努めます。

■令和6年度に谷山北部地区の新店舗が完成した際、跡地の活用はどう考えているのか。計画があれば教えてほしい。また遊休資産の固定化は経営上の負担となるので、十分な対応をしてほしい。

【回答】跡地の活用方法については、当地区及び伊敷地区についても今のところ未定であります。ご意見を伺いながら決定し、報告させて頂きたいと思っております。併せて不稼働資産にならないような対策を講じていきたいと考えます。

■組合員との対話を増やすことは良いことだが、地区別説明会の内容をもう少し検討した方が良くと思う。また自己改革の取組みを評価するアンケートはもっとシンプルな内容で簡単に回答できる工夫が必要なのではないか。

【回答】今回のご意見を踏まえ、組合員の皆様分かりやすい内容に次回から改善するとともに、アンケートの内容についても再度整理致します。

合併5周年記念・農業まつり

12月4日、県民交流センターで鹿児島の食と農・JA組合員・地域住民とのふれあいをテーマに日頃の感謝の気持ちを込めて3年ぶりに開催され、市内外から3600人が訪れました。

会場では、生産農家や女性部による農産物や加工品、手芸品の展示販売のほか、今話題の鹿児島黒牛の試食・販売があり、長蛇の列ができ大人気でした。

また、食農教育アグリスクール生が収穫したお米「あぐり米」の対面販売や桜島小みかんの詰め放題、野菜販売など様々なブースでの販売を体験しました。

ステージでは、第12回全国和牛能力共進会の特別区で首席に輝いた曾於高校畜産同好会の学生と青年部による農業パネルディスカッションや吹奏楽部による演奏、ダンスショー、伝統芸能などが披露されました。

最後にお楽しみ抽選会もあり、桜島小みかんサイダーやおこわなどの賞品のほか特賞として、日本エアコミューター株式会社からペア航空券やJAから食事券(3万円分)など105人に豪華賞品がプレゼントされました。

今回、カボチャやパセリ、みつばなどを2つのこども食堂に食材を提供しました。



12月11日ダブルフェア

JAフェア

おいどん市場与次郎館でJA鹿児島みらいフェアが開かれ、オープン前に村山眞一郎組合長が来店者にあいさつしました。

屋外の店舗前特設テントには、桜島小みかんや野菜、女性部のふくれ菓子やシフォンケーキ・いこ餅・手芸品などの販売のほか、お楽しみ抽選会もあり大勢の買い物客で賑わいました。

また、桜島小みかんのブースでは、贈答用やワンコイン(500円)詰め放題も人気で1個でも多く入れようと袋を広げながら詰め放題を楽しむ来店者の姿もありました。

女性部コーナーでは、部員が対面販売を行い、手作りお菓子をPR販売し、お昼前には全ての商品が完売し大盛況のイベントとなりました。



ごしょらん創業感謝祭

12月11日、創業感謝祭が開かれ大勢の来場者で賑わいました。

店内には早朝から白ネギやハクサイ、ブロッコリーなど新鮮な野菜が次々と搬入され、屋外には寄せ植え鉢や色鮮やかなシクラメンやパンジー・ハボタンなどガーデニング用の花苗などが販売されました。

屋外のイベント会場では、鹿児島黒牛の試食販売や職員による豚汁・炊き込みご飯の販売、新米の計り売りなどのブースが設けられ、多くの来場者が楽しい時間を過ごしていました。

また、「みいちゃん農園」では、収穫体験もあり子供たちがかわいい大根やブロッコリーの収穫を体験しました。



各支店で3年ぶりに感謝祭が開催されました

11月20日から12月11日まで各支店や直売所で感謝祭が3年ぶりに開催され、久しぶりのお祭りに大勢の来場者が集まり、楽しい時間となりました。

会場では、色々な催しが企画され賑やかな声と笑顔があふれていました。



西谷山



桜島



中山



谷山東部



小山田



坂之上





桜島小みかん



2022年産桜島小みかん

桜島小みかんは、K-GAP(かごしまの農林水産物認証制度)の認証のほか、17年度には国が推奨している地理的表示保護制度「GI」に県内では2番目、農産物としては県内初の登録を受けています。

11/25

■ハサミ入れ式

11月25日、桜島白浜町の白尾秋則さん(70歳)の園地で開かれ、鹿児島県や鹿児島市、桜島柑橘ハウス振興会、JA関係者ら30人が初収穫を祝いました。

桜島小みかんは、17年に地理的表示保護制度「GI」の認定を受けたことをPRしながら「みかんは小つづ甘さは大つづ」のキャッチコピーで県内外への贈答用を中心に共販量100tの出荷を見込んでいます。



園地では、安全祈願祭のあとハサミ入れ式へと移り、村山眞一郎組合長や桜島柑橘ハウス振興会の白川隆会長、桜島小みかん娘など関係者が色づいた桜島小みかん

12/2

■初セリ

12月2日、中央卸売市場で初セリが行われ、セリ場にはM・玉を中心に3tを出荷し、木箱に入った最高ランク「特上」6kg詰めが1万円でセリ落とされ、2年連続のご祝儀相場となりました。

セリ場では、村山眞一郎組合長が初セリの挨拶に立ち「生産者が丹精込めて作ったので多くの人に桜島小みかんを味わってほしい」と話したあと仲買人たちの威勢のいい掛け声が響き次々とセリ落とされました。

桜島小みかんは、香りと甘味が特徴の果実で贈答用を中心に延べ25日間、量販店やスーパー等で販売されました。

G-Iとは

長年培われた伝統的な生産方法や気候、風土、土壌等の生産地の特性が品質などの特性に結びついている産品を農林水産省が保護する制度。



しめ縄作りはじまる

J A 鹿児島県みらい葉ニンニク部会の鳩宿隆夫会長は、葉ニンニク出荷作業としめ縄作り日々追われています。

しめ縄作り歴20年の鳩宿会長は、自家用のモチ米づくりから始まり、11月上旬にウラジロ採取、モチ米の収穫、藁の確保など12月からのしめ縄作りに向けて準備を行います。

今回は、鹿児島市平川動物公園に飾る7mのしめ縄のほか船会社などから注文を受けた70本のしめ縄を作りました。

作業場では、事前に選別した藁に霧吹きで水を吹きかけたあと、数本の藁を手で注文を受けたしめ縄の長さに合わせて編み込み作業のあと、^{ひげ}髭切や下がりの部分を藁切りで長さを整え、出荷前にダイダイとウラジロを付けて完成させました。



鳩宿会長は「こだわりはモチ米の柔らかい藁を使ってしっかりと編むこと。しめ縄は魔よけとして玄関先に飾られる物なので一つ一つしっかりと気持ちを込めて作り上げている」と笑顔で話していました。



①



②



③



④



⑤



⑥

2022年産出荷

12月12日、錫山千両グループ

プは錫山集荷施設で千両の出荷作業を行い、鹿児島県や市、J A 関係者15人が集荷した千両(一万本)の出荷作業に追われました。同グループでは、6戸の生産農家が露地やハウス(30a)でお正月の縁起のよい花として飾られる千両作りに取り組んでいます。

22年産は、台風の影響が最小限にとどまり、病害虫対策の強化に努めた結果、実付きの良い葉のきれいな千両に仕上がっていました。

集荷場では、和田宮農指導員が束ねた千両の房数や粒数、着色などを検査したあと、粒が落ちないように丁寧に包装され階級別に次々と箱詰めされました。

右田幸治会長は「例年以上にきれいな千両を消費者に届けることが出来ました。消費者に喜ばれる千両をこれからも作り届けていきたい」と話していました。



2022年度桜島小みかん収穫職員が援農支援

12月11日、萩原孝一郎さん(74歳)の園地で援農支援アルバイト

が実施され、J A 職員2人が収穫作業を支援しました。

桜島赤生原にある園地では、みらい検定プロジェクトの野間庸介リーダーと亀澤憲太職員が収穫方法について説明を受けたあと、桜島小みかんの色づきを確認しながら収穫作業に汗を流しました。

亀澤職員は「単純作業ですが根気のいる作業で桜島小みかん作りに対する思いや苦労など体験を通じて学ぶことが出来た貴重な一日となった」と話していました。

また、野間リーダーは「まずは援農支援活動のことや現状を知ってもらうきっかけに繋がってほしい。今回の援農支援の体験談を今後発行する『みらいット!』に掲載して紹介していきたい」と語っていました。



年金友の会ゴルフ大会で 大活躍

10月25日、本部
で第9回J Aバン



ク鹿児島年金友の会ゴルフ大会
の表彰式と賞品授与式が開か
れ、関係者18人が出席しました。

同大会は、同月14日、霧島市溝
辺町にある溝辺カントリークラ
ブで開かれ、県内各地区の予選
を勝ち抜いた154人が出場し
秋空のもとプレーを楽しみまし
た。

式では、村山眞一郎組合長と
鹿児島県信連の田上健作専務が
あいさつしたあと、個人の部優
勝の深瀬重義さん(80歳)と女性
の部優勝の前田ゆみ子さん(67
歳)、団体3位のメンバー
らに功績をたたえ賞状と
賞品が授与されました。

個人の部の優勝と団体
3位入賞と大活躍した深
瀬さんは「大きな大会での
優勝と団体3位は嬉しい。
エイジシューターを目標に
これからも仲間と大好き
なゴルフを楽しみます」と
笑顔で話していました。



深瀬さん



前田さん



団体3位入賞

坂之上菊花部会 仙巖園菊花コンクール 2年連続総合優勝

11月16日、坂之上盆栽同好会の中の菊部会が
仙巖園・鹿児島県菊花連盟主催の2022年度

仙巖園菊花コンクールに自慢の盆栽菊を出品し、11月16日
の総会で表彰を受け、2年連続で総合優勝に輝きました。

菊部会の奥一徳会長は21年に県内で4人しかいない名人
賞を取り、33人の盆栽愛好
家の会員に挿し木や枝つ
くりなど盆栽菊の基礎を
教えながら、1年以上の制
作期間を費やし、作品作り
に取り組んでいます。

22年度のコンクールに
は、同連盟に加入している
14支部のうち11支部から
115人が盆栽単鉢之部
や盆栽組花壇之部、小品
盆栽花壇之部など210
点671鉢を出品し、11
月1日から23日まで園内
に展示されました。

奥会長は「盆栽は作れば
作るほど楽しい。目標はも
ろろん3連覇、会員と更な
る上を目指して頑張りたい
」と話していました。



資産管理部会セミナー開催

11月26日、谷山東部支店
でセミナーが開かれ、会員
18人と関係者あわせて25人
が参加しました。



セミナーでは、稲本ちほみ税理士を講師
に招き「基礎から学ぶ相続税について」を
テーマに講演を行いました。

会員は「とても分かりやすくいい研修
でした。相続について現実的に考える良い
機会になりました」ととても好評でした。

最後に積水ハウス㈱と経済連の施設住
宅課より事業案内がありセミナーを終え
ました。



一里原園芸組合「コマツナ」 かごしまブランド団体認定

11月1日、アグリタウン小山田で一里原

園芸組合のかごしまブランド団体認定証伝達式があり、鹿児島地域振興局や鹿児島市、JA関係者ら16人が参加しました。



同組合は、6戸の生産農家が硬質プラスチックハウス250棟でコマツナ・チンゲンサイ・ホウレンソウなどの軟弱野菜5品を作り、2005年にK-GAP、21年にAS-IAGAPの取得に続き、かごしまブランド葉物野菜としては県内第1号となる「こまつな」が認定されました。

県が認証する「かごしまブランド」は、生産量が全国トップクラス・市場等からの品質の評価が高いなど本県を代表する農畜産物で現在28品目168団体が認定され特産品として指定し、PRしています。

認定式では、鹿児島地域振興局の有馬博史農林水産部長から有村伊智博組合長に認定証が手渡されました。

引き続き、有村組合長が「今回の認定を大変光栄に思っております。これからコロナ禍の中、安心・安全な野菜の提供はもちろん、これまで以上に6戸の生産農家が一致団結して100万ケース400tを目指したい」と話していました。



地域農業を守る

犬迫スペシャルバスターズ

小山田支店管内にある犬迫町で「犬迫

スペシャルバスターズ」として5人のメンバーが地域を巡回し、有害鳥獣駆除活動に取り組んでいます。

同バスターズは、数年前からイノシシなどによる被害が広がる中、地域の農作物を守ろうと2021年12月に古野剛リーダーを中心に5人が立ちあがりました。

メンバーらは、猛勉強をして全員が一発合格で狩猟免許を取得し、地域巡回やイノシシの生態の把握はもちろん、ワナの作り方や設置場所、出現状況など月に1度の定例会で協議しながら駆除活動に取り組んでいます。

22年4月から10月31日までにイノシシ17頭、アナグマ29頭、タヌキ1頭を捕獲しました。

古野リーダーは「捕獲したあとは埋葬していたが今後はジビエ料理等について勉強しながら販売なども視野に入れ地域の活性化に繋がりたい」と話していました。



桜島で農業用

廃プラスチック4t回収



10月27日、桜島柑橘選果場の駐車場で鹿児島市園芸作物振興協議会の農業用廃プラスチック類等の回収があり、島内から51件、4tのハウスビニールやマルチ・肥料袋・農薬の空き容器等が回収されました。

同協議会では、環境保全型農業推進の一環として、塩化ビニールやポリエチレンフィルム、農薬の空き容器などの農業用廃プラスチック類等を年1回農家から一斉に回収し、環境汚染防止に努めています。

駐車場には、軽トラックに山積みされた廃ビニールが次々と持ち込まれ、関係者らは種類別に分別したあと重量を測り、産業廃棄物処理事業者へ委託しました。

搬入した農家は、計量結果シートと処理申込書を担当者渡し、農家負担金を納めたあと「回収をしてもらえて助かる。廃プラ処理は個人では出来ないで専門の業者が処理してくれるので安心です」と話していました。



講習会でおいしいビワ作り学ぶ

11月14日、平川果樹部会は2022年度栽培講習会を開き、会員と関係者20人が参加しました。

同部会では、会員21人が長崎早生や茂木、なつたよりなど3品種を栽培し、消費者に喜ばれるビワ作りに取り組んでいます。

今回は、外園義興会長の園地で長元宮農指導員が徒長枝や副梢の整理、結果枝の間引き、摘蕾、摘花など栽培管理について説明したあと、茂木ビワを使い11月末と23年2月中旬から3月中旬に行つた2回の摘房作業など実演を交えて指導しました。引き続き、寒害対策や病害虫防除の時期、薬剤について再確認しました。



冬のキュウリ出荷はじまる

果菜類部会では、冬出荷用のキュウリの出荷が始まりました。

同部会では、9月中旬から10月上旬に3戸の会員がハウス(38a)に従来のグリーンラックスのほか2022年産から新品種のニーナを試験栽培しながらM級を中心に出荷量20tを計画しています。

部会員のひとり、枇榔直生さん(25歳)は4年越しに念願のキュウリ作りが始まり、ハウスには10月上旬に定植した接ぎ木苗(1275本)が順調に生育し、連日収穫作業に追われています。

長谷謙佑宮農指導員は「生育は順調。5月中旬まで市場やスーパー、直売所への出荷作業が続くので安心・安全な美味しさが詰まったキュウリ作りに努めてほしい」と話していました。



良品質の白ネギ出荷へ

11月15日、白ネギ生産部会は宮農センターで2022年産出荷前講習会を開き、部会員と関係者27人が参加しました。

同部会では、40戸の生産農家が2品種(龍まさり・夏の宝山)を作り、県内を中心に11月末から2月まで16tの出荷を計画しています。

講習会では、長谷宮農指導員が生育概況と収穫までの管理作業として「10月以降の乾燥が続く最終土寄せが遅れ、収穫期のずれ込みが予想されるため、収穫までは2〜3週間をひとつの目安にして土寄せをしてほしい」と説明しました。

引き続き、地床直置き育苗で定植したほ場と新品種(THN160)を試験栽培している2ヶ所のほ場に回り、根の張りや軟白部など生育状況を確認しました。



葉ニンニク生育順調

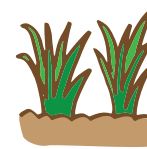
11月10日、葉ニンニク部会は2022年産出荷会議を開き、会員と関係者8人が参加しました。

葉ニンニクは、ニンニクの生長途中の若い葉を収穫するため、匂いは少なく甘みがあり、炒め物や鍋料理など冬の定番野菜として人気が高い野菜です。

同部会では、4戸の生産農家が9aのほ場で栄養価の高い葉ニンニク栽培に取り組み11月末から出荷が始まり、県内のスーパー等で販売されています。

会員らは、鳩宿隆雄部会長のほ場で、出荷前の生育状況を確認したあと出荷会議へと移り、和田宮農指導員が22年産の生育状況や箱詰め、集荷日程等について説明しました。また、葉ニンニクの栽培や農薬使用基準等について再確認しました。

鳩宿部会長は「栄養価の高い葉ニンニクを知ってもらい、ひとりでも多くの人に食べてもらいたい」と話していました。



桜島小みかん生産農家が出前授業

12月14日、桜島ブランド総合販売促進対策協議会は、市内の桜丘東・錦江台・錫山小中学校に桜島小みかん2040個(102kg)を学校給食に提供しました。



桜丘東小学校では、白川隆会長が4年生76人の児童に桜島小みかんの魅力や歴史、収穫方法について説明したあと、質問へと移り「1個の値段や何粒ありますか」など楽しい質問が飛び交っていました。

引き続き、鈴なり枝の収穫へと移り「収穫の二度切り楽しかった。もっとたくさん収穫したかった」と声を弾ませていました。



男の料理教室(北部地区)

11月22日、かこしま環境未来館で男の料理教室が開かれ参加者と女性部員、関係者8人が参加しました。

今回は家の光レシピから、ゴボウのみそつくねや焼いもアイス、キンパ風のり巻きなど5品の料理作りに挑戦しました。調理室では、



本日の料理について説明を受けた後、参加者は配られたレシピを確認しながら料理作りを楽しみました。

完成した料理は全員で試食し「1年前より料理作りに慣れてきました。今回も女性部のサポートのおかげで美味しい料理が出来ました」と大満足していました。



女性部坂之上支部

ぺこちゃん保育園の親子がみそ作り体験

坂之上支店で恒例の親子みそ作り教室が開かれ、ぺこちゃん保育園の親子(16組)と女性部員ら50人が大豆たつぷりの麦みそ作りに挑戦しました。

同支部は、ぺこちゃん保育園の園児と、ちゃぐりんぐや芋ほり体験など活動を通じて交流を深める中で2015年に親子参加型のみそ作りを提案し、毎年

手作りみそ作りを楽しんでいます。

調理室では、蒸した大豆を親子でペースト状にしたあと、大きなザルで麦や塩、ペーストの大豆を混ぜ150kgのみのを作りました。

参加者は5kgのみのを袋に詰め「親子でみそ作りが出来て大満足です。市販のみのを使った時に子供から美味しくないと言われ味の違いが分かることに驚きました。とてもいい食育になっています」と笑顔で話していました。



助けあい組織かがやき

■知っておきたい認知症の基礎知識とケアを学ぶ

11月16日、助けあい組織かがやきは鹿児島市都市農業センターで研修会を開き、会員と関係者89人が参加しました。

同かがやきはJAの相互扶助の精神のもと、住みよい地域社会づくりをめざして「ふれあい」と「助けあい」によるボランティア精神活動に取り組んでいます。

会では、川畑功美子会長のあいさつのあと、「知っておきたい認知症の基礎知識とケア」をテーマに鹿児島県厚生連病院の認知症ケア専門士の花木とき子健診科師長と野守真央主任が、物忘れと認知症の違いや認知症介護問題、主な認知症の種類など事例を交えて説明しました。

また、トイレ以外での排泄・オムツを直ぐにはずしてしまう・何度も同じことをきいてくなど認知症の人の「様々ななぜ？」を基にケアのヒントも紹介され、興味深い講演に耳を傾けメモをとっていました。

会員らは「認知症は人ごとではないのでケアの方法などとても勉強になりました。同じことを何度も聞かれて感情的になったこともあったので研修で学んだことを思い返しなが毎日楽しく、くよくよせずに残りの人生を過ごしたい」と話していました。

■全員が楽しめる走らない運動会を楽しむ

11月2日、助けあい組織かがやきは鹿児島県ふれあいスポーツランドで2022年度健康づくり大会「走らない運動会」を開き、会員と関係者70人が参加しました。

今回は、足腰に不安を抱える会員らも一緒に楽しめる健康づくりを目的に「走らない運動会」を企画し、JAについての〇×クイズや団扇にボールを乗せて歩く「ゆつくり急げ」、新聞紙で作ったボールをカゴに入れる「玉入れ」を楽しみました。

会員らは「久しぶりの玉入れ楽しかった。カゴに1個ぐらいは入ったのかな」と笑顔で話していました。

川畑功美子会長は「ウォーキングから今回は走らない運動会に変更して実施しました。足が痛い会員も一緒に楽しめて良かった。来年はもっと競技を増やして盛大に開きたい」と話していました。



坂之上支部 ウォーキング秋を満喫

10月31日、女性部坂之上支部は2022年絆ウォーキング(秋の草)を開き、秋晴れのもと部員40人が慈眼寺公園までのウォーキングを楽しみました。

部員らは、景色や会話を楽しみながら約3km(片道)の道のりを歩き「普段車での移動が多いので今日は小さな秋を見つけながらウォーキングしました」と声を弾ませていました。

同支部では、11年の秋から東日本大震災の被災地へ募金活動と部員との仲間づくりを目的に春と秋の年2回実施しています。

公園には、コスモスの花が一面咲き誇り、部員らは、記念写真を撮ったあと、思い思いに秋を満喫していました。

部員らは、準備されたお弁当に舌鼓を打ちながら「楽しかった。外の景色を眺めながら食べるお弁当は美味しい」と笑顔いっぱいでした。



大隅半島周遊日帰りの旅

～女性部ふれあいの旅～

11月25日、女性部員95人と事務局3人の98人が3年ぶりのふれあいの旅を満喫しました。今回は、鹿児島県神宮での参拝

や志布志の大クスの見学、大黒リゾートホテルでの豪華ランチを堪能しました。午後からは直売

所とつ菜市場や南風ガーデンハウスでの買い物など

大隅の旅を満喫し「久しぶりの旅行だったのでお腹

いっぱい楽しめました」と笑顔があふれていました。



女性部通信

小野支部

■料理教室

11月8日、女性部小野支部は料理教室を開き、部員12人がサトイモやリンゴなど旬の農産物を使った料理4品を作り、支店職員とのランチを楽しみました。

同支部では年2回、家の光の記事を活用して、旬の野菜を使った料理作りを通じて交流活動に取り組んでいます。

今回は、リンゴと水菜の白和え、生米きな粉白玉のほか、川田原光美支部長が自家製のサトイモ(6kg)を提供し、マーボーサトイモの材料として活用しました。

部員らは4班に分かれ、各料理を完成させテーブルにはボリューム満点の料理が並びました。

川田原支部長が「小野のレストランが開店しました。いただきます」とあいさつしたあと、職員との会話を交えながら料理を堪能しました。

職員は「日頃部員の方と話す機会がないので、ご馳走になりながら会話を楽しめました」と笑顔いっぱいでした。

■「てあそび楽しむ」(手芸教室「てあそび」)

11月22日、手芸教室「てあそび」を開き、部員20人が参加しました。

同教室では、川田原光美支部長の指導を受けながら2023年の干支ウサギで「さげもん」作りを8月からスタートし、12月の農業まつりへの展示に向けて最終の仕上げ作業を行いました。

部員らは、コツコツと様々なパーツを作りあげ31体のウサギを作り終えたあと、最後の飾り物として吊るし紐に飾るウメの花を作り「やっと終わりが見えてきました。ウサギの表情も1体1体違って和みますね。来年は良い年になりそうですね」と笑顔で話していました。

川田原支部長は「もうすぐ完成です。部員が一生懸命作った力作を色んな人に見てもらいたい」と話していました。



西谷山支部 地域との交流活動

11月6日、女性部西谷山支部は西谷山小学校の体育館で3年ぶりに開かれた西谷山校区文化祭に参加し、校区住民らと楽しい時間を過ごしました。

今回は、小中学生による吹奏楽の演奏や演武、太鼓・踊りのほか住民による民謡やフラダンスなど11演目が披露され、体育館には笑顔と拍手が響き渡っていました。

同支部では、これまで歌やスコップ三味線など女性部活動を発表してきました。

今回は「青い山脈」の歌に合わせた踊りを披露し、女性部のパワーあふれる発表で会場を沸かせていました。

川畑功美支部長は「久しぶりの文化祭を楽しみました。これからも校区との交流を大切にしながら活動していきたい」と話していました。

下伊敷支部 料理教室

11月4日、女性部下伊敷支部は下伊敷支店2階の調理室で料理教室を開き部員10人が旬の野菜を使った料理作りを楽しみました。

同教室は、毎月第1金曜日に旬の野菜を使った料理やお菓子作りを通じて、部員との交流活動を楽しんでいます。

今回は、家の光11月号から切り干しダイコンのサラダやサトイモのたいも他、デザートにリンゴのレンジコンポートなど5品を作りました。

調理室では、準備した食材とレシピを確認したあと調理を開始し、部員らは「どんな料理に仕上がるか完成が楽しみ」と声を弾ませていました。

完成した料理は全員で試食し「美味しくて白ご飯がすすむね。まさに食欲の秋にぴったりの料理が出来ました」と笑顔で話していました。



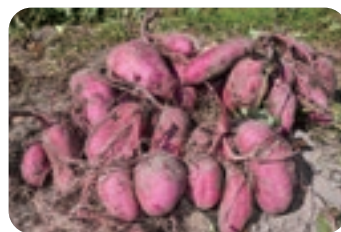
山田下町内会・あいご会 サツマイモ収穫楽しむ

11月5日、山田支店管内の山田下町内会・あいご会は、サツマイモ収穫を行い12家族30人が参加しました。

同町内会・あいご会は、子供たちに農業や食べ物大切さを学んでもらいたいと「親子でさつま芋を育てよう」をテーマにした食農教育を実施し、町内にある畑(3a)を借りて6月上旬に紅はるか(250本)の苗を定植しました。

今回のサツマイモ作りは、末永忠美町内会長からJAに協力依頼の相談があり、杉山管理経済担当参事や松岡富農指導員が植え付けから収穫までをサポートしてきました。

畑では、松岡指導員がサツマイモの生長期や収穫前に行う、つる払いを紹介し、収穫方法について説明したあと、収穫へと移り、参加者は「サツマイモ凄く大きくて食べきれないね。丸ごと天ぷらにして食べたい」と夢中になって収穫を楽しんでいました。



出前授業

サツマイモ収穫10団体 700人が体験

10月中旬から吉野支店管内にあるサツマイモの収穫体験のほ場で市内の保育園や幼稚園、小学校10団体700人の子供たちがサツマイモの収穫を体験しました。ほ場には6月上旬にサツマイモ収穫体験用の苗2品種2000本を定植しました。

10月20日には、なでしこ幼稚園の年中・年長組104人が訪れ、豊島相談役が収穫方法について説明をしたあと「隠れているおイモさんを見つけない」と掛け声を掛け、園児たちは待ちにまつた収穫を満喫しました。



地域全体でサツマイモ収穫

10月16日、小野支店管内にある鶴之村地区でサツマイモの収穫祭があり、町内会やあいご会・長寿会・JA関係者50人が参加し、5月に定植したサツマイモ(紅さつま)170本を収穫しました。

同町内会では、2020年から地区内の空き地(24㎡)を借りて小さなサツマイモ畑を作り、高齢者や子供たちとの交流の場として活用しています。

畑では、早朝から末吉正隆町内会長を中心にメンバーが集まり、つる払いや振る舞いの蒸しイモ作りに追われていました。

収穫祭では、町内会からサツマイモの植え付けから収穫までの生育状況のほか、収穫方法について説明を受けたあと、子供たちは畑に入り待ちにまつた収穫を楽しみました。

末吉会長は「子供たちの笑顔が見られて良かった。来年は一緒に植え付けから収穫を子供たちと一緒に楽しみたい」と笑顔で話していました。



自分たちが育てたお米で おにぎり作り楽しむ

11月10日、吉田南支店管内にある吉田南幼稚園で年長組の園児27人が自分たちで作ったお米でおむすび作りに挑戦しました。

同幼稚園は、2019年から地元で農業を営む弟子丸一幸さん(33歳)の田んぼで田植えから稲刈り作業を体験しながら地元でお米作りの楽しさを学んでいます。

園児らは、10月中旬にノコガマの使い方について説明を受け、大きく生長した稲を1株ずつ収穫したあと、コンバインでの収穫も体験しました。また、稲刈り後の藁に寝転んだり、鬼ごっこをしたり元気に走り回り、賑やかな声が響き渡り「藁のお布団ふかふかして気持ちいい」と笑顔いっぱいでした。

収穫後、弟子丸さんからお米が届けられ、給食等で全園児が新米を堪能しました。

年長組の教室では、炊飯器の使い方を教わりながら初めてのご飯炊きに挑戦したあと、炊き立ての新米で丸や三角のおにぎりを握り「お米がキラキラしてるね。モチモチして美味しい。もつと食べたい」と口いっぴいに頬張り笑顔があふれていました。



稲刈りとポップコーン作り 親子で楽しむ

10月15日、吉田南支店管内でアグリスクール(食農教育)を開き、13組の親子とJA関係者60人が稲刈りを体験しました。

田んぼでは、長谷宮農指導員がノコガマの使い方や稲の結び方について説明をしたあと親子で稲刈りを楽しみました。

また、コンバインに子供たちを乗せ機械を使った稲刈り体験もあり、子供たちは「初めて乗りました。ドキドキしたけど機械での稲刈りはあつという間で楽しかった」と声を弾ませていました。

稲刈りを終えた参加者は準備されたおにぎりや焼き芋で疲れを癒したあと、空缶でポップコーンを作り塩やシナモンシュガー、キャラメル味など好きな味に仕上げ、口いっぴいに頬張っていました。

参加者は「空缶の再利用ですね。今度は家で試してみます」と好評でした。

引き続き、座学へと移り、事前に配布していた家庭用キットでの野菜の作り方や管理作業のほか生ごみから堆肥を作るポイット丸について学びました。



はららっぱ農園

11月23日、原良支店管内にある積水ハウスの分譲住宅地コモンヒルズはららの町内会「はららっぱ農園」でラディッシュとコマツナの種蒔き体験を行い、地域住民ら30人が参加しました。

同農園は、年2回JAのサポートを受けながらサツマイモやナスなど親子で旬の野菜作りに取り組んでいます。

今回は、JAから松岡宮農指導員と蒲池支店長ら3人がラディッシュの種を手蒔きしたあと、ごんべい(種蒔き機)を使ってコマツナの種蒔き「ごんべいのベルトに種が入って行くのを見ながらの種を蒔き楽しかった」と笑顔で話していました。





経営企画部
福山生活指導員

かぶ

かぶは赤かぶ・白かぶ、大きささまざまですが、最も一般的なものは白い小かぶです。かぶは根と茎葉で栄養成分が違う野菜です。根の部分はビタミンCや分解酵素アミラーゼが含まれ、消化による胸やけや食べすぎによる胃もたれの不快感を解消するなど整腸作用に優れています。茎葉は、緑黄色野菜に分類され、抗がん作用や生活習慣病予防に効果的なβ-カロテン・ビタミンC、骨粗鬆症予防に役立つカルシウムが豊富に含まれています。

かぶを選ぶ際は、実は真っ白でハリがあり、傷が少ないもの、ひげ根があまりついてないものを選びましょう。

また茎葉の部分は緑が濃く、色が均一で鮮やかなもの、先の方までピンと張ってみずみずしいものを選びましょう。購入後は、茎葉に栄養をとられてしまうので、実と茎葉は切り離しましょう。実はビニール袋等の密閉できるものに入れ、冷蔵庫や野菜室で保存。茎葉の部分は茹でて小分けにし、冷凍保存すると良いでしょう。

肉質が柔らかいので、煮物・漬物・蒸し物・炒め物とどんな料理にも活用できます。

かぶとササミのガーリック炒め

材料 2人分

かぶ …………… 1個
鶏ササミ …………… 3本
小松菜 …………… 1把
にんにくチューブ …大さじ2
マヨネーズ …………… 大さじ3
塩 …………… 少々
塩コショウ …………… 少々
オリーブオイル …… 適量



作り方

- ①鶏ササミの筋をとって1口大に切る。
- ②ボール又はビニール袋に①、マヨネーズ・にんにくチューブ・塩を入れて揉みこむ。15分ほどおいておく。
- ③かぶは茎葉3cmほどに切り、実は皮のまま1cmほどの短冊切りにする。小松菜も3cmほどの長さに切る。
- ④フライパンにオリーブオイルを熱し、②を焼く。片面焼けたらひっくり返し、③を加えてさらに炒める。
- ⑤食材に火が通ったら、塩コショウをふって味を調えて完成。

かぶのシーチキン和え

材料 2人分

かぶ …………… 1個
シーチキン …………… 1缶
ゴマ油 …………… 小さじ2
鶏がらスープ …… 小さじ3
白ごま …………… 適量

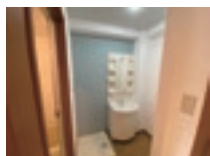
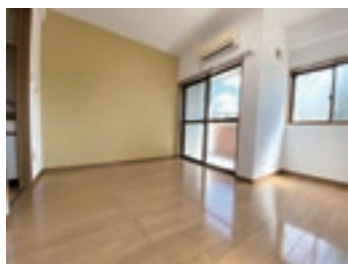


作り方

- ①かぶは茎葉5mmほどの小口切り、実は皮ごと半分切ったあと千切りにする。
- ②ボウルに①と油をきったシーチキン・ゴマ油・鶏がらスープを加えてよく混ぜる。
- ③盛りつける際に白ごまをふって完成

不動産センターからのお知らせ

JR指宿枕崎線 谷山駅徒歩8分	1K
家賃	40,000円
2階角部屋♪脱衣所あり♪ アクセントクロスが特徴のお部屋です!	
物件名	リバーサイドMK2 201号
所在地	鹿児島市東谷山5丁目30-10
間取り	洋7・K3
敷金	無し
駐車場	敷地外5,000円
構造	軽量鉄骨造3階建て
占有面積	24.28㎡
築年月	2007年1月



賃貸物件、家・土地の売買、リフォーム
(外壁塗装・屋根・瓦・内装・浴室・トイレ・
台所等)のご相談承ります。
お気軽にお問い合わせください。

「売却物件」(土地・住宅・賃貸物件)
のご相談承ります。(無料査定・秘密厳守)
お気軽にお問い合わせください。

JA鹿児島みらい 不動産センター

鹿児島市東谷山2丁目22-23
JA鹿児島みらい 谷山東部支店2階
TEL 099-268-2263 FAX 099-260-9591
E-mail tbu.100-134@ks-ja.or.jp
http://ja-kagoshimamirai.com/



家庭菜園



ジャガイモ

掘り出すのが楽しみ、
どんなイモが出てくるかな

1. 植えつけ

植えつけ時の土の量は、容器の半分

芽の数が均等になるように縦に切り分けて、切り口を乾かします。



1片が50～60gくらいになるように種イモを切り、切り口を半日程度乾かす。小さいものは切らずに植えてよい。



袋は2/3くらいの高さで端を折っておく。袋の底に鉢底石を入れて、土を半分くらいまで入れる。



切り口を下にして、間をあけて種イモを3個置き、その上に10cmくらい土をかける

2. 芽かき・追肥

元気のよい芽を1本残す

植えつけから3～4週間くらいたったなら、何本か出てきた芽のうち元気のよいものを残す「芽かき」をします。



芽が15～20cmになったら、3か所とも大きくて元気のよい芽を1本だけ残す。残す芽を押さえて、抜けないよう注意して抜く。



芽かき後、化成肥料30gを芽のまわりにまき、新しい土を10cmくらい足して増し土する。さらに花が咲き始めたら、同量の化成肥料を追肥する。

3. 収穫

とりのこしがいいかよく探る

葉が枯れてきたら、収穫の合図です。茎の根元を持って引っぺがります。



とりごろは、葉が茶色くなって枯れたころ



根元を持って引き上げる。土中にイモが残っていることがあるので、よく探す。

持続可能な社会を目指す！

SDGsの行動として、JAの具体的な取り組み事例を紹介します。組合員の皆様も様々な社会の課題とSDGsとのつながりを学び、今日から実践できる取り組みを共に考えましょう。

● 2022年産桜島小みかん ハサミ入れ式、初セリ(P8)

伝統的な食文化にかかる情報発信
農業者の所得増大、農業生産の拡大



● 農業用廃プラスチック類等の回収(P11)

持続可能な生産消費形態を確保する
土壌診断等による保全



● 親子でミソ作り体験(P13)

子育て支援サービス
食農教育・生きがいをづくり



個人のお客さまへ

生活用口座の開設に関するお願い

JAバンクでは不正な口座開設による金融犯罪を未然に防止し
お客さまに安心してご利用いただくために

生活用口座（普通・総合）の開設につきましては、
お一人様1口座を
お願いしております。

普段使いのお金はまとめて1口座に。
事業用口座の開設に関しては、最寄りのJAバンク店舗までお問い合わせください。

JAバンク

いいこと、たくさん。
通帳レス口座が便利だぞう。

POINT1

紛失・盗難のリスクが無い
お出かけ時に通帳を忘れることも
万が一の時も安心

POINT2

資源節約でエコ
紙資源などを節約できて
環境にやさしくエコ

POINT3

10年間分限会可能
入金金額明細書が
10年間分限会可能

JAバンクアプリから切り替えるぞう。

JAバンクアプリ

アプリをダウンロードして簡単操作！いつでもどこでも
口座振替の申し込みや残高の確認ができます。

JAネットバンク

インターネットから簡単操作！いつでもどこでも
口座振替の申し込みや残高の確認ができます。

個人以外の口座（法人口座など）を開設されるお客さまへ

「犯罪による収益の移転防止に関する法律」等で求められている事項に加え、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与を防止するため、法人口座等を開設していただく際に「公的書類等」による確認および口座開設にかかる審査を実施しております。

※審査には平均1週間程度を必要とします。審査の結果、ご希望にそえない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

必要書類など詳しくは、窓口にお問い合わせください。

お客さまにはお手数をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

nagomi vol9

進めよう!「国消国産」を発行しました

2022年12月に地域コミュニティ誌「nagomi vol9」を発行しました。

今回は「国消国産」をテーマに農産物直売所「ごしょらん」と「おいどん市場と次郎館」にスポットをあてて紹介しています。直売所の新たな発見もあるかも・・是非手にとってご愛読ください。アンケートによるプレゼントもありますのでご応募お待ちしております。

★1月の運勢★

射手座
11/23～12/21

【全体運】ピンチをチャンスに変える力強さがあります。状況は厳しくても諦めないで。反対意見に耳を傾けると逆転へ
【健康運】適度な運動が大切。何事もやり過ぎないで
【幸運の食べ物】ミカン

山羊座
12/22～1/19

【全体運】勢いのある好調運ですが独り善がりにならないように。周りの人のことを思って行動すると好結果に。金運も良好
【健康運】ゆったりとティータイムで心の疲労も改善
【幸運の食べ物】ホウレンソウ



野菜ソムリエ上級プロ

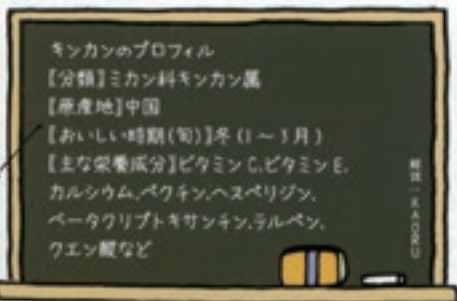
KAORUの

フルーツ パラダイス

イラスト：小林裕美子

キンカン

～皮ごと味わう小さなかんきつ～



選び方



楽しみ方・食べ方のコツ



デザートに



加工



その他



保存方法

乾燥しないようにラップで包み冷蔵庫などに
入れ、冷蔵所または冷蔵庫の野菜室へ



日持ち

冷蔵所の場合は1週間、冷蔵庫
の野菜室で2週間程度

長期保存

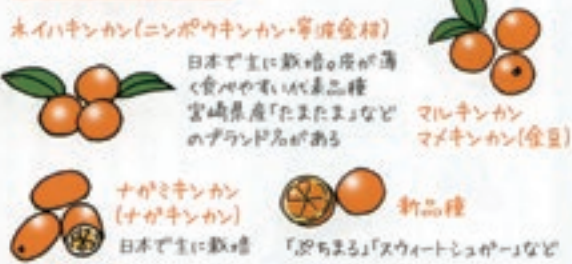
砂糖漬け、
甘露煮など



キンカンのチカラ



キンカンのいろいろ



キンカンのじみツ



水瓶座
1/20～2/18

魚座
2/19～3/20

【全体運】上昇運です。周囲が協力してくれ良い方向に進みます。1人で悩まずに相談を。良い知恵も貸してもらえるはず
 【健康運】手足を冷やさないよう、しっかり保温を
 【幸運の食べ物】レンコン

【全体運】自分の意見を少し譲ると思っていた以上にスムーズに進みます。予定や計画も実行しやすい手を加えてみて
 【健康運】ホットミルクでカルシウムを補給して
 【幸運の食べ物】イカ

読者からのおたより

■みらいを創る(園芸)の仮屋さん親子の肩くみ写真羨ましい。いま48歳の息子にされたら恥ずかしいけど嬉しいでしょうね (ペンネーム・ミー「ばあたん」)

■いつも広報誌「みらい」にほっこりします。掲載されている記事からは元気をいただき、地域の様々な行事にも自然と関心を持つようになりました。また「nagomi8」に登場されました女性の笑顔に癒されました。農業おごじよのパワーで鹿児島島の食を支えてほしいですね。応援しています (ペンネーム・ねなママ)

■誰がなんと言っても究極のSDGsは農業だと思っています。自分で作れたらいいのですが現役世代の今はちょっと難しい。せめて12月4日の農業まつりで農業に触れて味わいたいとおもいます (ペンネーム・ねこねこにゃんにゃん)

■アートの広場はいつも楽しみにしているひとりです。どの作品も心がほわっとする味のあるものばかりで癒されています (ペンネーム・まあちゃん)

■どのページも楽しいです。特別表彰おめでとうございます。合わせてご苦労を知らされました。チンゲンサイ農家の微笑ましいご家族の写真…きつとチンゲンサイも甘くて美味しいヨ！ほか元気な皆さんの活躍を知り元気をもらいました (ペンネーム・チビクロ)



■ボケ防止にとみらいをいただいで地域の情報など楽しみに読んでいます。高齢者へもみらいを読んでもらっています。内容によっては現在の野菜などの育て方など興味をもたれ、昔とは違うなどと話されています。認知防止にも繋がっているように思います (ペンネーム・福ちゃん)



単位:頭・円 (税抜価格)

広報誌モニターからの意見・要望

要望

- ◎誌面の都合もあると思いますが家庭菜園は毎号掲載してほしい
- ◎冷凍弁当の記事は文字がはっきりしない部分があり読みにくい部分があった
- ◎広報誌を作っている方々の特集おもしろいと思います。どのように「みらい」が出来上がるのか知りたいですね
- ◎グラウンドゴルフ大会の写真2位から4位の写真大きくなりませんか?チームのインタビュー内容があればもっといいですね
- ◎本店で「ごしょらん」の野菜を販売する日を掲載してほしい
- ◎相続について税金対策など詳しくおしえてほしい
- ◎11月29日に吉野町にオープンした「JAのお肉屋さん」の特集をしてほしい
- ◎インボイス制度について知りたいので特集をお願いします
- ◎JADDO優待店舗の紹介は地図などがあつたらさらに分かりやすくなりますね

意見

- ◎小さな意見や不満も取り上げてあり良かったと思います
- ◎未来の農業に明るさと元気を感じました
- ◎三世代での生産農家頼もしいかぎりです。若い方のキラキラした瞳が印象的です

Q: 広報誌は手に取れるところに置いてあるといいですね (例えばAコープの店舗)

A: 組合員や地域の方に読んでもらいたいとAコープの各店舗のほか関連施設に置いてあります



12月子牛セリ市成績表(売却のみ)

	みらい計	畜連計
総頭数	113	358
総平均	563,761	563,411
めす	頭数	51
	最高	665,000
	最低	307,000
	平均	499,941
去勢	頭数	62
	最高	1,020,000
	最低	212,000
	平均	616,258

JA鹿児島みらいの概況 (2022年11月末)

正組合員数	6,074人
准組合員数	37,899人
総組合員数	43,973人
貯金残高	2,783億8千4百万円
貸付金残高	963億1千6百万円
長期共済保有高	5,674億1千3百万円



正解者の中から抽選で20名の方に
農協共通商品券をお送りいたします。

応募方法

左下のハガキを切り取り、必要事項をご記入の上、

- ①支店窓口にお持ちいただくか、
- ②63円切手を貼ってポストに投函してください。

[締切] 2023年2月10日(金) 必着

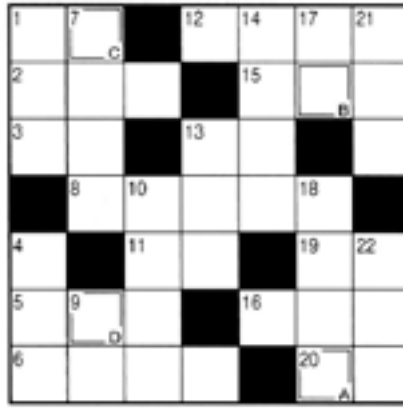
クイズの答えにおたよりを添えて、どしどしご応募ください。身近な地域の話・イラスト・絵手紙・写真などの作品もお待ちしております。
[おたより]クイズの答えにまつわるエピソードのほか、JAに対するご意見・ご感想、良かった記事など教えてください。

■11月号お楽しみクイズ
当選者発表(敬称略)

ひいちゃん	はんちゃん	ぶーとん
すずちゃん	宇木千鶴子	シユウ
ヨツちゃん	里みどり	せつちゃん
れなママ	ターコちゃん	だいち
ミーコばあたん	まあちゃん	サツちゃん
福ちゃん	つるひめ	ひまわり
四季咲子	マロ	



二重マスの文字をA～Dの順に
並べてできる言葉は何でしょうか?



A B C D

⇒ヨコのカギ

- 1 正月に飲む薬酒。お——気分がなかなか抜けない
- 2 髪の毛の渦巻き
- 3 エッフェル塔がある都市
- 5 練り物やダイコンを煮込んで作ります
- 6 自分より後に生まれた人はみんなこれ
- 8 食事の管理や指導を行います
- 11 去年はナスの——がとても良かった
- 12 太鼓や木琴やトライアングルなどのこと
- 13 毛筆でしたためることも
- 15 大学入学共通テストは国公立大学だけではなく——大学も利用しています
- 16 計画のこと。お得な宿泊——
- 19 京都・三十三間堂の通し矢で新成人が引きます
- 20 ——、ニタカ、三ナスビ

↓タテのカギ

- 1 初詣で、受験を控える子の難関——を祈願した
- 4 2つで1組の——茶わん
- 7 客のためにワインを選びます
- 9 師匠の下で学びます
- 10 親から子へ受け継がれます
- 13 —— 中期末期
- 14 年賀状によく書かれる2文字の熟語
- 17 湖に張った氷に穴を開けて楽しむ——もあります
- 18 登山やキャンプで使う寝袋
- 21 コンコンと鳴く動物
- 22 警察は原則として——不介入です

キリトリ線

▼本誌へのご意見、身近な地域の話、イラスト、絵手紙、写真など
お書きください。

ペンネーム

美味しい仲間が
増えました!!



本部購買課 電話 099-239-9310



国産原料へのこだわり。かわらない安心、安全を
未来へつなげます。

●金額は全て消費税込みの金額です。

アートの広場

素敵なイラスト・絵手紙・写真をおくっていただきありがとうございます。全ての作品を掲載したいのですがスペースが限られているためご紹介出来ない作品もあります。ご了承ください。



ペットボトルキャップ回収運動 950kg回収しました (約238人分のポリオワクチン)

2020年からJA県女性協
結成65周年記念SDGsに係
る統一活動の「おごじょ★集
めます」運動としてペットボ
トルキャップの回収運動を実施し「世界の子どもたちにワクチ
ンを届ける」ことを目的に組合員や地域住民へ声を掛け、本
部、本支店で回収ボックスを設置し、キャップ回収800kgを目
標に掲げて取り組んできました。

12月9日、(株)新興エコ谷山工場に310kgのキャップを持ち
込み、累計で目標を上回る「950kg」となり、目標達成となり
ました。ペットボトルキャップ回収運動にご協力いただきあり
がとうございました。今後は新たな目標を掲げて回収運動を
継続していきますのでご協力お願いいたします。

キャップ回収について再度確認していただきたい事が2点あ
ります。

- ①ペットボトルキャップ以外のキャップはプラスチックゴミと
して家庭ごみに出してください
 - ②ペットボトルキャップはサッと水で洗って乾いた状態の物
を袋に入れて各支店の回収ボックスに入れてください
- お手数をお掛けしますがご協力いただけると幸いです。



郵便はがき

〒63 円切手を
貼って下さい。
又は JA 窓口へ

8 9 2 0 8 1 7

鹿児島市小川町27番17号

JA鹿児島みらい本部

広報誌 1 月号

「お楽しみクイズ」係

1月号 クイズの答え					
お名前		年齢		性別	男・女
住所	〒 —				
電話番号					

ご応募の際にご記入いただきました個人情報は本誌編集、抽選、商品発送以外の目的で
使用することはありません。本店、支店の窓口でも受け付けます。